

4. 地区別のみどりの現況

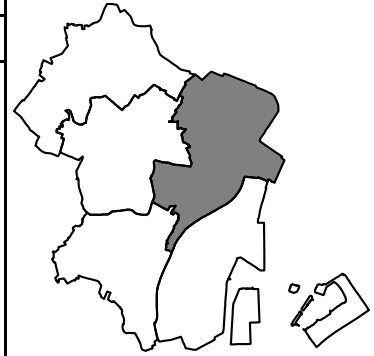
芝地区

調査区域面積 448.27ha

人口 41,467人

<土地利用等>

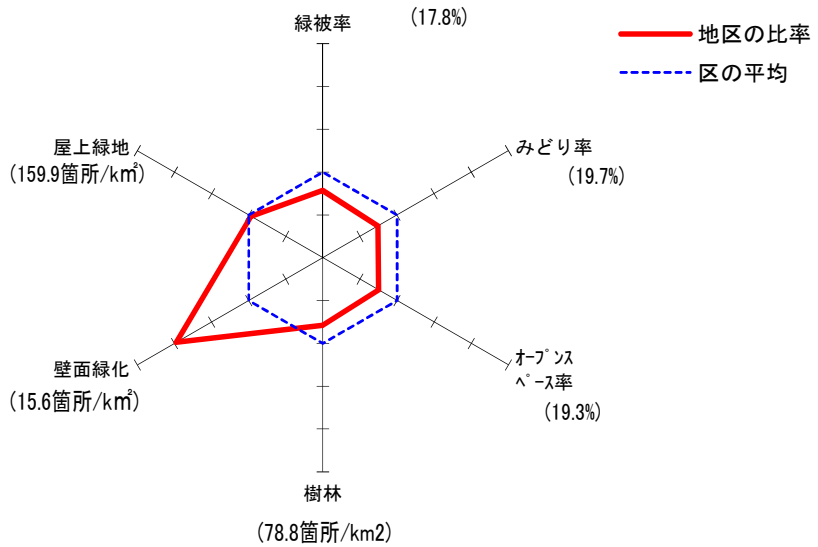
旧東海道(現在の国道15号線)が通り、史跡等の貴重な文化財が数多くある。また、芝公園などの自然環境にも恵まれている。昼間人口と夜間人口の差が大きく、新橋地区や虎ノ門地区はビジネス街としての地域特性を持っている。環状2号線周辺や竹芝では大規模な開発事業等が行われ、日本有数の商業・業務地としてのにぎわいのあるまちづくりが進められている。



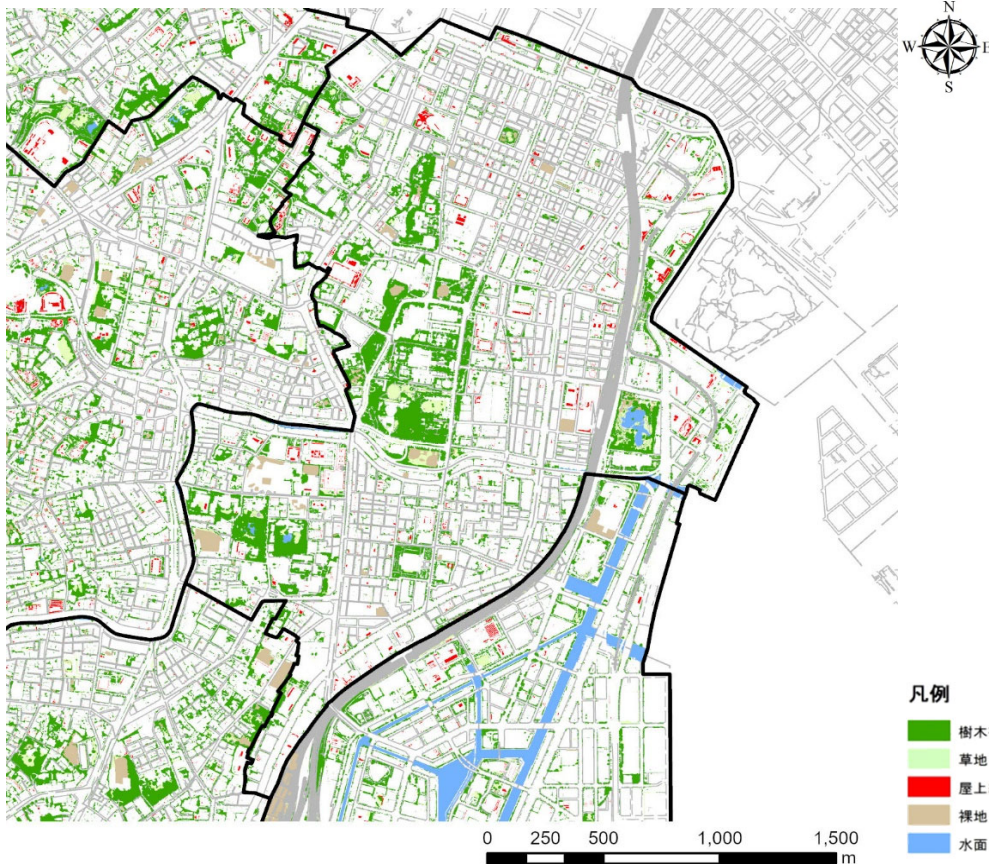
<みどりの指標>

緑被率(%)	17.8
みどり率(%)	19.7
オープンスペース率(%)	19.3
樹林(箇所/km ²)	78.8
壁面緑化(箇所/km ²)	15.6
屋上緑地(箇所/km ²)	159.9

商業業務地が中心で緑被率やオープンスペース率は低いが、壁面緑化や屋上緑地による建築物上の緑化が多い。壁面緑化の単位当たり箇所数は5地区中最も多く、近年の開発事業等でも大規模な壁面緑化が整備されている。芝公園、愛宕神社、芝離宮恩賜庭園などの緑地はあるが、地区全体の樹林の単位当たり箇所数は5地区中最も少ない。



<緑被地の分布状況>





0 100 200 400
m

芝地区 空中写真図

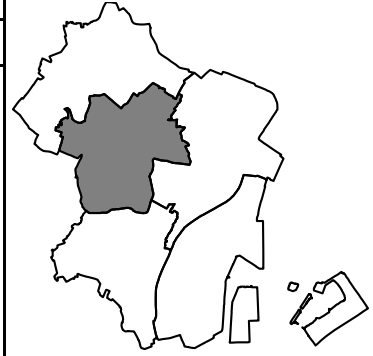
麻布地区

調査区域面積 385.77ha

人口60,239人

<土地利用等>

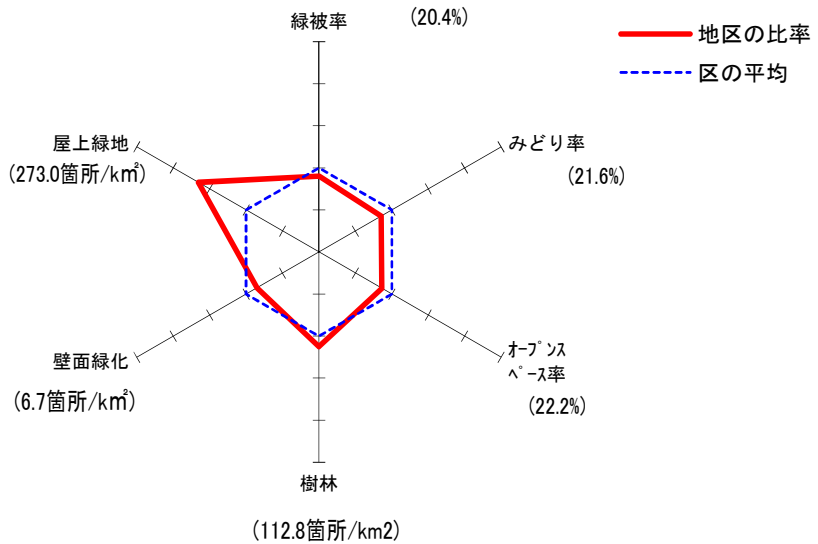
台地と低地が複雑に入り組んでおり、起伏に富んだ坂の多い地区である。六本木交差点から東西南北に広がるように、飲食店や商業店舗が多く立地するが、閑静で環境に恵まれた住宅街が程よく分布している。古くから大使館が多く立地し、外資系企業も集積していることから、外国人が多く集まり居住する国際色豊かな地区である。六本木を中心に大規模な開発事業により、商業・業務機能が集積するとともに、美術館などの文化芸術施設も多いことから、東京を代表する観光スポットとしてにぎわっている。



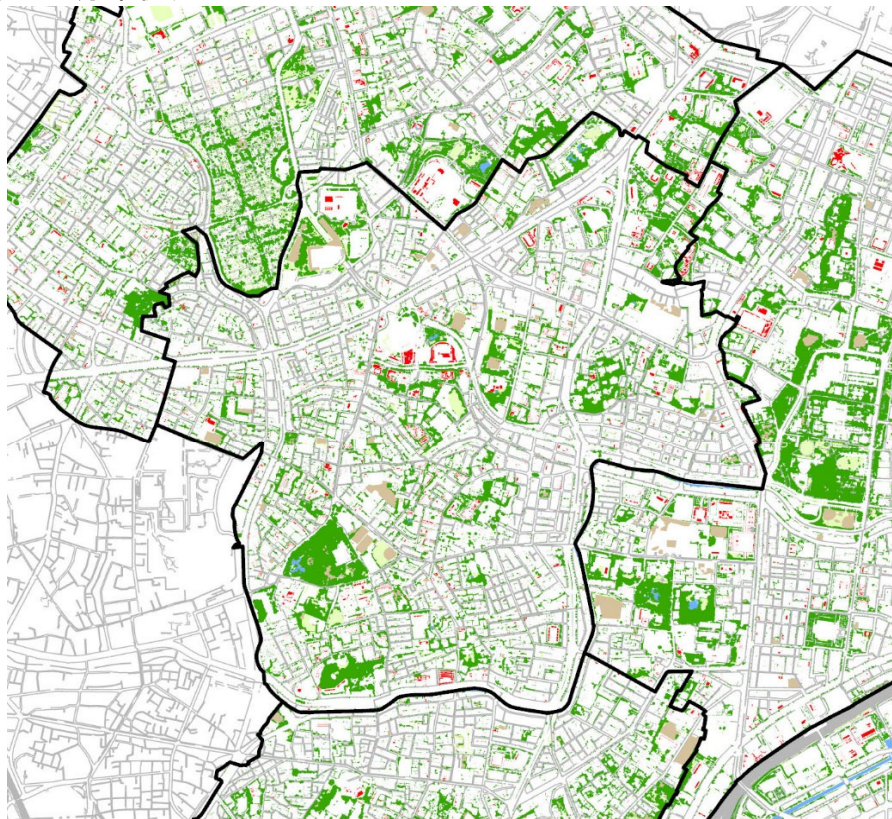
<みどりの指標>

緑被率(%)	20.4
みどり率(%)	21.6
オープンスペース率(%)	22.2
樹林(箇所/km ²)	112.8
壁面緑化(箇所/km ²)	6.7
屋上緑地(箇所/km ²)	273.0

台地上から斜面部にかけてはみどりが多いが、古川周辺の低地部には少なく、緑被率やオープンスペース率は区平均よりも低い。大規模な商業施設や集合住宅等を中心に、屋上緑地や壁面緑化が多く分布しており、屋上緑地の単位当たり箇所数は5地区中最も多い。樹林は有栖川宮記念公園、大使館、大規模商業施設などに分布しており、5地区中2番目に多い。



<緑被地の分布状況>





麻布地区 空中写真図

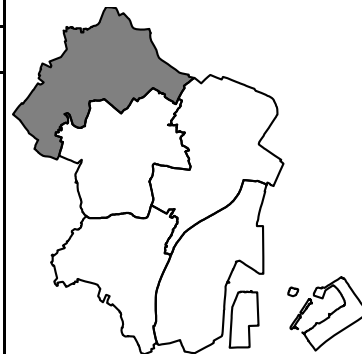
赤坂地区

調査区域面積 412.70ha

人口 37,532人

<土地利用等>

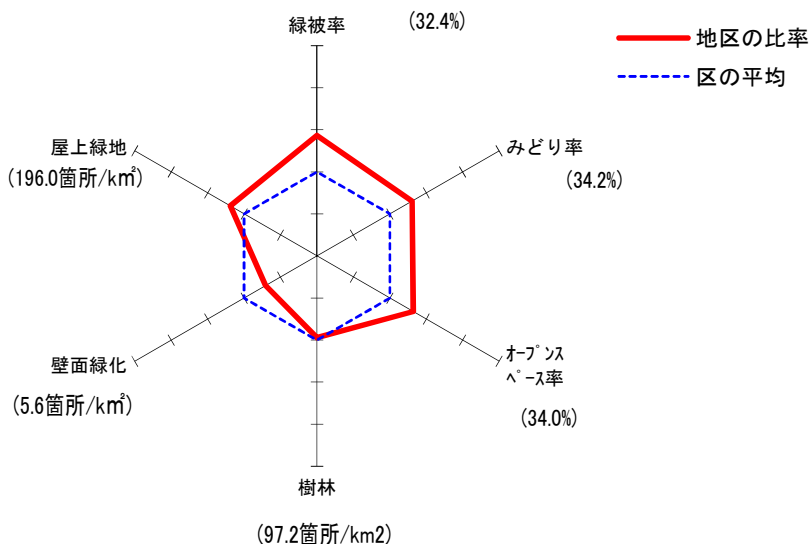
外堀通りや青山通りなどの幹線道路沿いには商業・業務地が立地し、街区内部には低層住宅や店舗が共存する住宅地となっている。赤坂氷川神社、迎賓館等の歴史資源が多く残されている。赤坂御用地、青山霊園、明治神宮外苑等の大規模な緑地があり、みどりが豊富な地区となっている。近年も東京ミッドタウン六本木、赤坂インターシティAIRなどの開発事業によって、みどり豊かなオープンスペースが増えている。



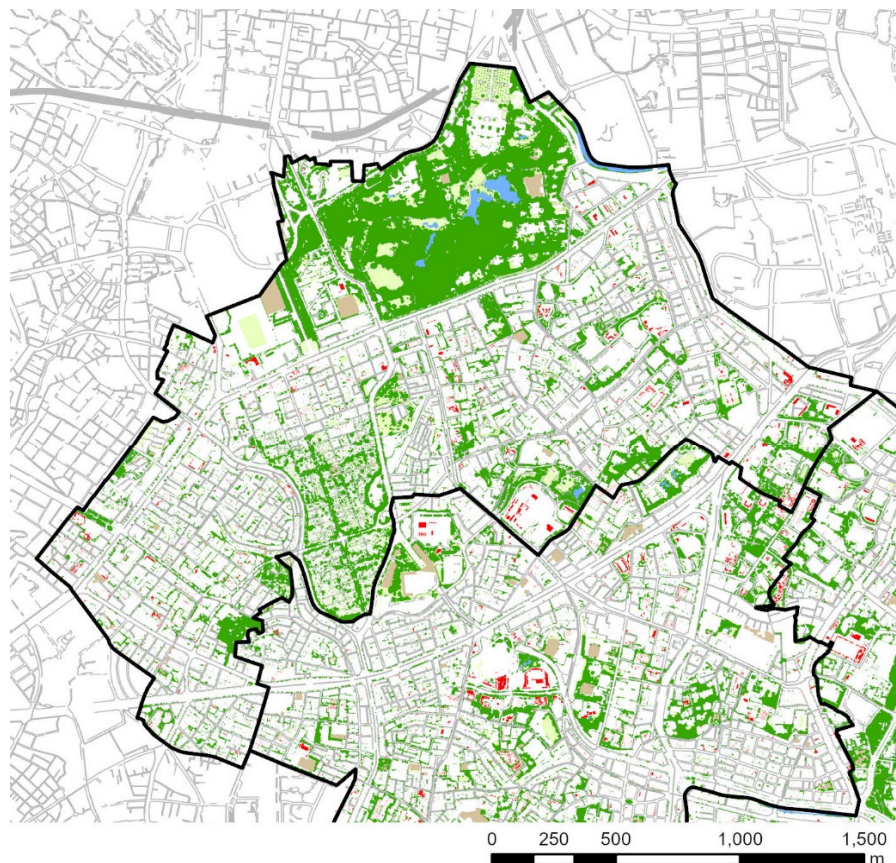
<みどりの指標>

緑被率(%)	32.4
みどり率(%)	34.2
オープンスペース率(%)	34.0
樹林(箇所/km ²)	97.2
壁面緑化(箇所/km ²)	5.6
屋上緑地(箇所/km ²)	196.0

緑被率、みどり率、オープンスペース率は5地区中最も高い。赤坂御用地、青山霊園、明治神宮外苑等の大規模な緑地を有するためである。東京ミッドタウン六本木をはじめとした開発事業により多様な緑地が整備されており、屋上緑地も比較的多い。樹林では区内最大の樹林である赤坂御用地があるため面積は最も大きい、単位当たり箇所数では中位である。



<緑被地の分布状況>





赤坂地区 空中写真図

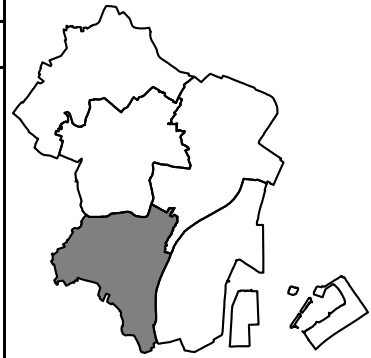
高輪地区

調査区域面積 344.16ha

人口 60,993人

<土地利用等>

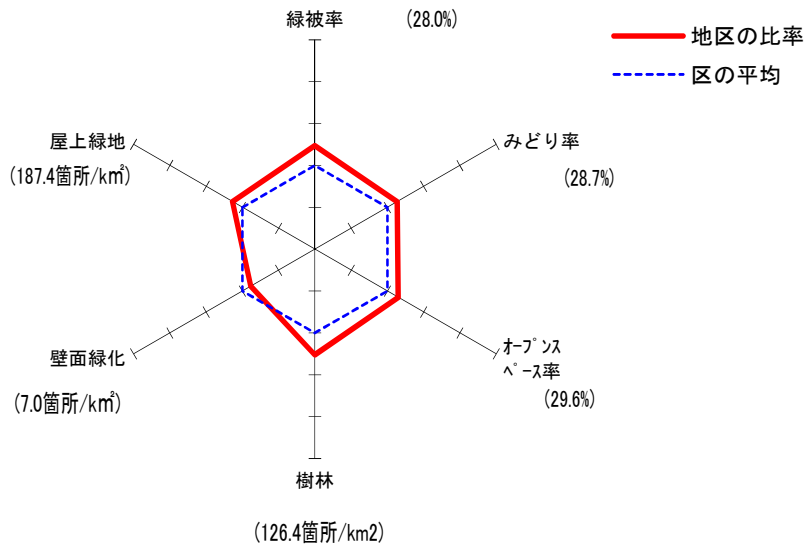
台地部では住宅地が多く、低地部は住宅、店舗、工場の混在する地域を形成している。近年は高層マンションの建設が相次ぎ、人口は増加傾向を示している。自然教育園、庭園美術館、泉岳寺、日本庭園を有したホテルなど、歴史的・文化的なみどり豊かな空間が形成されている。近年、品川駅及び高輪ゲートウェイ駅周辺では大規模な開発事業等が行われ、国際交流拠点にふさわしいまちづくりが進められている。



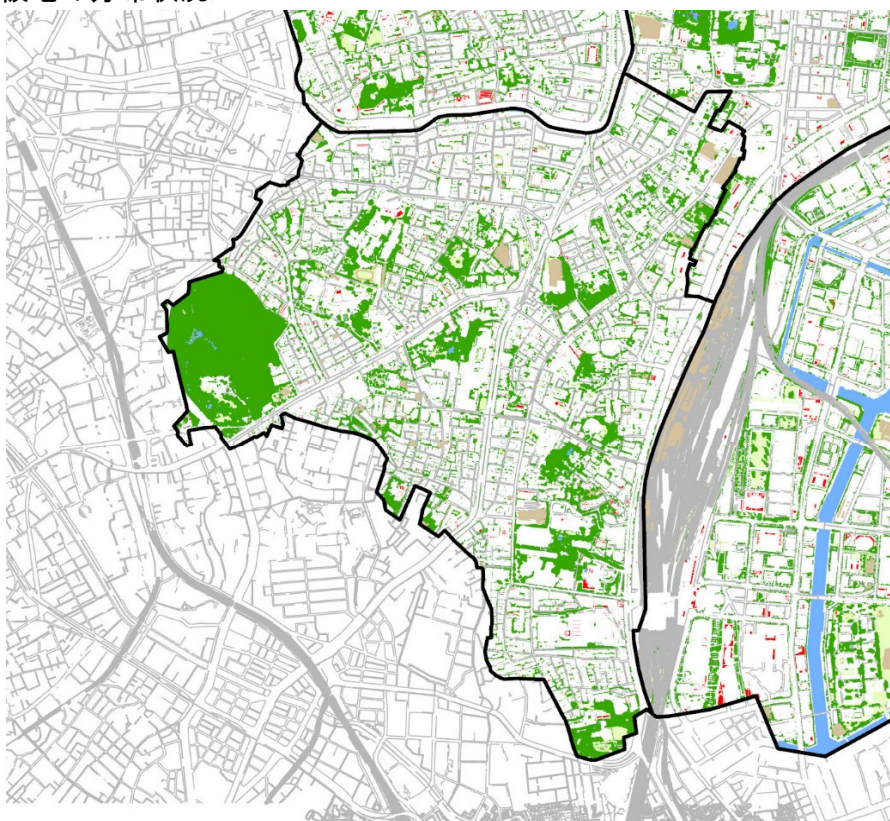
<みどりの指標>

緑被率(%)	28.0
みどり率(%)	28.7
オープンスペース率(%)	29.6
樹林(箇所/km ²)	126.4
壁面緑化(箇所/km ²)	7.0
屋上緑地(箇所/km ²)	187.4

緑被率、みどり率、オープンスペース率は2番目に高く、樹林の単位当たり箇所数は5地区中最も多い。自然教育園は豊かな自然を有しみどりの拠点となっている。また、高輪台地の斜面地には公園や施設緑地としてまとまったみどりが分布している。壁面緑化や屋上緑地の箇所数は比較的多いが小規模なものが多く、建築物上の緑化面積は最も少ない。

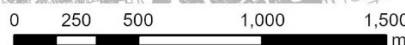


<緑被地の分布状況>



凡例

- 樹木被覆地
- 草地
- 屋上緑地
- 裸地
- 水面





0 100 200 400
m

高輪地区 空中写真図

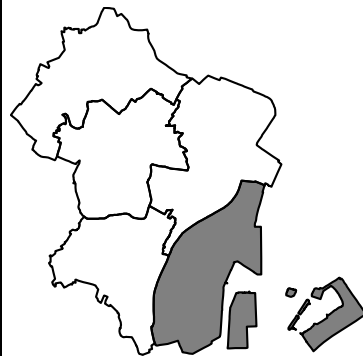
芝浦港南地区

調査区域面積 485.09ha

人口 57,275人

<土地利用等>

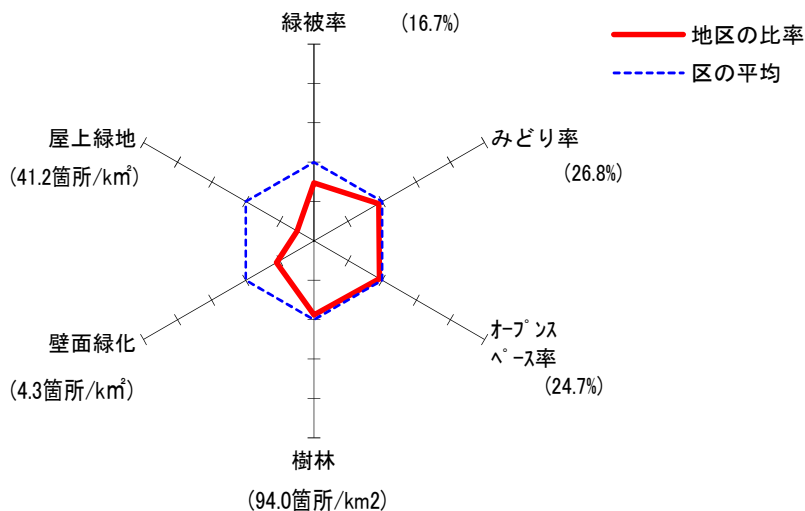
明治以降の東京湾の埋立によって形成されており、起伏の少ない平坦な地形となっている。運河の街としての一面をもち、ウォーターフロント開発による急速な土地利用転換が進み、高層のオフィスやマンション、ホテルや複合商業施設が多数建設されるなど、まちの姿は大きく変貌した。地区の交通利便性の向上に伴い、オフィスやマンションの開発が進み、人口も増加傾向にある。



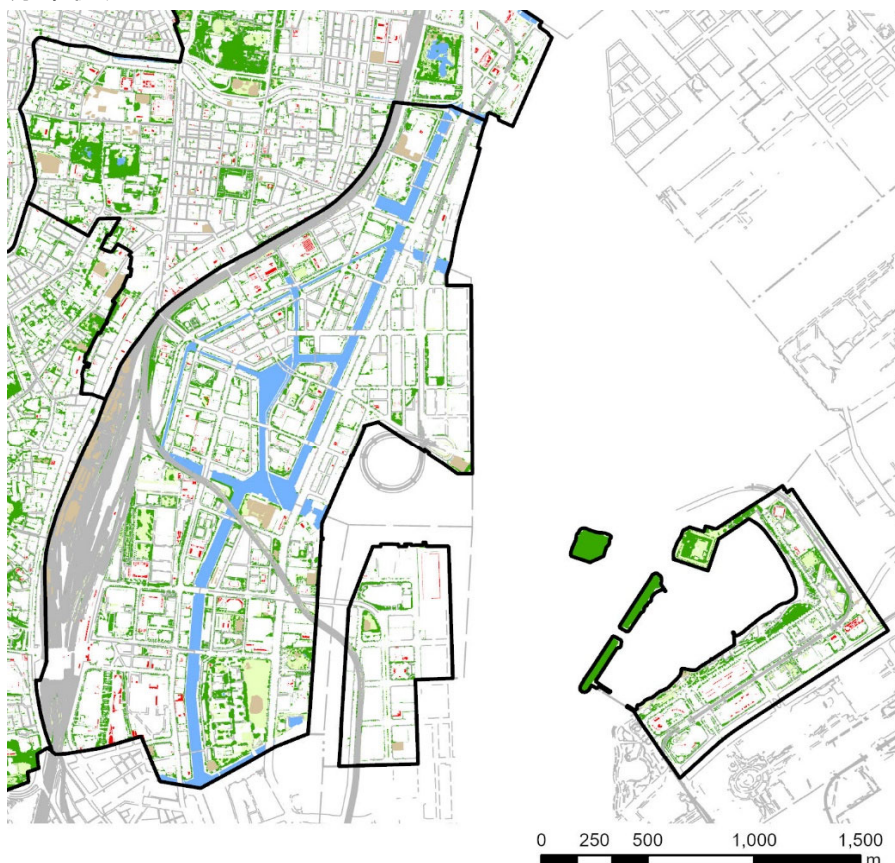
<みどりの指標>

緑被率(%)	16.7
みどり率(%)	26.8
オープンスペース率(%)	24.7
樹林(箇所/km ²)	94.0
壁面緑化(箇所/km ²)	4.3
屋上緑地(箇所/km ²)	41.2

埋立地に形成された地区のため古くからのみどりはないことから、他の4地区と比較して相対的にみどりは少ないが、運河の水面によりみどり率やオープンスペース率は区平均程度である。他地区よりも街区規模が大きいので屋上緑地や壁面緑化の箇所数は少ないが、面積規模の大きい緑化が多い。埠頭周辺ではみどりが非常に少ない状況である。



<緑被地の分布状況>





0 150 300 600
m

芝浦港南地区 空中写真図